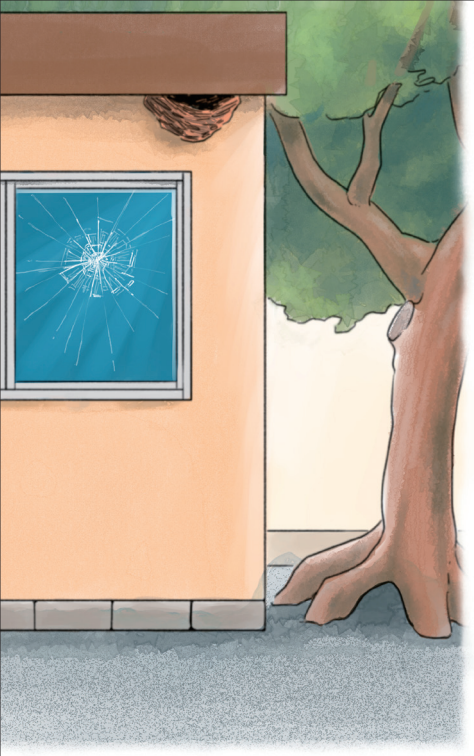
自主、自律、自由と責任

15 裏庭での出来事

文部科学省
編集委員会 改作
かわいちひろ 絵



チャイムが鳴り、昼休みになると、校庭に向けて、みんな一斉に飛び出していった。

校庭に出た健は、サッカーボールをボール入れの中から取り出した。そこに、同じサッカー部で隣のクラスの大輔と雄一がやって来て、

「健、裏庭でやろうぜ。」

と誘った。

「ええっ、裏庭？　校庭でやろうよ。」

健はそう答えてはみたものの、

「またこの前みたいに先輩にボールを取られてしまったら、どうするんだよ。」

と大輔に言われ、返す言葉がなかった。裏庭は狭く、サッカーができるほどの広さではない。しかし、校庭でサッカーをしようとすると、先輩にボールを横取りされる可能性が出てくるのだ。

三人で、体育館の裏の裏庭に行くと、さすがに誰もいなかった。

朗読 ▶

突然、大輔が「あっ。」と声を上げた。

「ほら、ほら、あそこ。」

健は、大輔が指さす方を見た。一匹の猫が、物置の軒下にある鳥の巣を狙っているようだ。巣の中には、まだ生まれて間もないひなが見えた。

「ああっ、どうしよう。」健がそう思った瞬間、雄一が物置に向かってボールを投げていた。猫は、ボールに驚いて逃げたが、同時に、ガシャーンという音がした。雄一が投げたボールが物置の窓に当たり、ガラスが割れたのだ。

「うわっ、どうしよう。」

「しかたないだろ。ひなを助けようとしてやったことなんだから。先生に報告しに行けばいいよ。それにしても雄一、よく助けたな。」と、大輔が言った。大輔は、ガラスを割ったことなど全然気にしていない様子だった。

「じゃあ、先生に報告してくるよ。」

雄一は職員室へ行こうとした。

「雄一、そんなの後でいいよ。俺たち、ひなの命を救うという、いいことをしたんだ。少しくらい遊んでいてもかまわないだろう。」

大輔は、ボールを蹴りながら、そう言った。しかし雄一は、

「いや、今行ってくるよ。」

と、きっぱり言うと、職員室へ向かった。

残された健は、ガラスの片づけを始めようとしたが、大輔が、

「健、ちょっとだけやろうぜ。」

と言って、健に向けてボールを蹴ってきた。

二人は初め、軽く蹴っていたが、だんだん距離を取って強く蹴るようになっていった。

そのうち、健が蹴ったボールが、さっきの物置の方に飛んでいった。「しまった。」と思ったそのとき、ガシャーンという音がして、さっき割ってしまったガラスの隣のガラスが、粉々に飛び散った。

「どうしよう……。」健は、そう思った。

そこに雄一が松尾先生を連れてきた。

「先生、ここです。」

雄一は、物置の割れた窓を指して、

「ひなが猫に狙われていたので、慌ててボールを投げてしまったのです。」

と、先生に事情を説明し始めた。

「先生、雄一はひなを助けようとしてやったことなんです。おかげであのひなが助かったんです。許してやってください。」

大輔がすかさずそう言い添えた。

「どうも、すみませんでした。」

雄一は、深々と頭を下げた。

「よし、わかった。けがをしないように十分注意してガラスの破片を片づけておくように。終わったら、雄一は、職員室へ報告しに来なさい。」

5 10 15 20

雄一
ボールを投げて物置の窓ガラスを割ってしまい、先生に報告に行く。

大輔
雄一が報告に行っている間に、片づけよりサッカーをしようと健を誘う。

健
雄一が報告に行っている間に、ボールを蹴って窓ガラスをもう一枚割ってしまう。

そう言い残して、松尾先生は職員室へ戻っていった。
先生の姿が見えなくなると、雄一は、大輔に詰め寄った。
「おい、どういうことなんだよ。ガラスが二枚割れているじゃないか。俺がさっき割ったガラスの隣の、あのガラスはいったいどうしたんだよ。」
「俺じゃないぜ。おまえが職員室に行ってから二人で遊んでいたら、健が割ってしまったんだよ。」
大輔は、そう説明した。
「健、おまえ、割っちゃったのかよ。」
雄一が言うと、健は、力なく答えた。
「ああ……。」
「何だよ。おまえら、調子よすぎるよ。二人でやったことなのに、俺の割ったガラスに便乗して。」
雄一は憤慨しているようだった。
「でも、俺がうまく言ってやったから、怒られずに済んだんじゃないか。そんなに冷たいこと言うなよ。友達じゃないか。」
大輔は、そう言うとドリブルをしながら、校庭の方へ行ってしまった。
残された二人は、気まずい雰囲気が漂う中、無言のままガラスの破片を片づけた。昼休みの終わりを告げるチャイムが鳴った。
五時間目が始まった。健は、好きな英語の授業にも全く身が入らなかった。
授業が終わり、サッカー部の練習に行っても、健は、気が重かった。

次の日、健は登校すると、すぐに雄一と大輔のところに行った。
そして、
「僕、やっぱり松尾先生のところに行ってくるよ。」
と、二人の顔を見ながら静かな声で言った。
その言葉を聞いた大輔は、
「えっ、じゃあ俺はどうすればいいんだよ。」
と、健に詰め寄った。
「僕は行く。大輔は自分で決めろよ。」
健はきっぱりと言うと、一人で職員室へと向かった。
健の後ろ姿を見つめていた大輔は、やがて健の後を追いかけていった。

考えよう

自分の行動に責任をもつとは、どういうことだろう。

- 松尾先生が来たとき、自分もガラスを割ったことを言わなかった健の心の中を想像しよう。
- 一人で職員室へ向かっているとき、健は、どんなことを考えていただろう。

チャレンジ「演じて考えよう」

見方を変えて

- 大輔は、どんな思いで健の後を追いかけていったのだろう。

つなげよう

- 「3　自分で決めるって？」（自主、自律、自由と責任）で学んだこととつなげて、自分の行動について考えてみよう。16ページ